

科目名	メディアコンテンツ特論			英文表記	Advanced Course on Media Contents	作成・修正日	
科目コード	6305						
教員名:西村 篤 技術職員名:なし						作成	
対象学科/専攻コース	学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間	
創造システム工学専攻・情報工学コース	専1	選	学修	2単位	講義	後期	
科目目標 【MCC目標】	<p>メディアコンテンツの表現内容と技法は、それを取り巻く政治的・社会的状況、また受け入れる側のライフスタイルや価値観によって大きく影響を受ける。本講義では地域社会におけるメディアコンテンツの果たす役割について事例を通じて学ぶと同時に、参加者自身が関連するテーマを選択して発表と討論を行うゼミナール形式で理解を深める。</p> <p>【IV-B-2】情報技術の進展が社会に及ぼす影響、及び個人情報保護法、著作権などの法律との関連について理解できる。</p> <p>【V-D-8】メディア情報の主要な表現形式や処理技法について説明できる。</p> <p>【VII-B】各種の発想法、計画立案手法を用い、より効率的、合理的にプロジェクトを進めることができる。</p>						
総合評価	(1)各単元ごとに課すレポートの内容(40%)、(2)発表と発表資料の内容(40%)、(3)発表における質疑応答の内容(20%)、により評価し、60%以上の達成を合格とする。						
科目目標 達成度と JABEE目 標との対応	科目達成度目標(対応するJABEE教育目標)		達成度目標の評価方法	ルーブリック			
				理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	最低限必要な到達レベル	セルフチェック
	① メディアコンテンツの価値についてエコロジカルな観点から考えることができる。(A-3)		レポート等の提出課題および発表、討論内容によって評価する。	メディアコンテンツの価値についてエコロジカルな観点から理解し、さらに独自の世界観の中に議論の対象を位置づけて論じることができる。	メディアコンテンツの価値についてエコロジカルな観点から理解し、論じることができる。	メディアコンテンツの価値についてエコロジカルな観点から理解することができる。	
	② 議論において多様な意見を受容することができる。(A-3)		発表時の議論の展開の観察によって評価する。	議論の焦点を踏まえながら、他者の自由な発言を促すことができる。	他者の発言を促しつつ、自分も発言することができる。	自分の意見を述べ、それに応じた発言を促すことができる。	
③ 議論に主体的に参加することができる。		発表の準備や討論の際の発言の内容について評価する。	発表準備において適切なメディアや表現方法を用いる等独自の工夫をすることができる。	話題提供の準備を行い、議論において自分の意見を述べることができる。	話題提供の準備を行い、発表することができる。		
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4	JABEEプログラム名称	メディア情報工学	
	○	○	○	○	JABEEプログラム教育目標	A-3	
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合							
	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック
評価項目		0	0	30	70	100	
基礎的理解	①			30		30	
応用力(実践・専門・融合)	②③				20	20	
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)	②③				40	40	
主体的・継続的学修意欲	②③				10	10	
授業概要、方針、履修上の注意	<p>【授業概要】メディアコンテンツが、特定の媒体に特化したデータではなく、社会の中で主体と環境の関係性によって生じる意味や価値の世界であることを身を持って体験しようとする。【授業方針】そのため、この授業では担当教員による学説や事例の紹介とともに、受講生自身が主体的に自分の考えや感性を形成していけるように、ゼミナール、ワークショップなど参加型の授業形式を導入する。ゼミ形式の討論では、担当学生によるプレゼンテーションをもとに、出席者全員が討論を行う形式を採る。【履修上の注意】この授業では問題を個人的な問題と結び付け、自ら感じたり考えたりすることが重要であるので、主体的な取り組みを心掛けて欲しいと思います。</p>						
教科書・教材	事前に購入しなければならない教科書はない。教材としてプリントを適宜配布する。						

授 業 計 画

週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習)内容	セルフ チェッ ク
1	ガイダンス	2	授業の目的・目標・学習方法について学ぶ。		

2	コンテンツ制作と技術	2	コンテンツ制作技術の発達について講義形式で学ぶ。	復習・発展課題	
3	コンテンツ制作と社会	2	プロパガンダ、研究方法など多様なコンテンツ応用事例	復習・発展課題	
4	コンテンツ制作と環境	2	メディア表現と環境問題の関係について、サウンドス	復習・発展課題	
5	事例研究	2	作品を事例にしてコンテンツの社会的応用について考え	復習・発展課題	
6	ゼミ形式討論(1)	2	受講生がテーマを選択して話題提供し、参加者全員で討論を行う。	復習・発展課題	
7	ゼミ形式討論(2)	2		復習・発展課題	
8	ゼミ形式討論(3)	2		復習・発展課題	
9	ゼミ形式討論(4)	2		復習・発展課題	
10	事例研究(2)	2		作品を事例にしてコンテンツの社会的応用について考え	復習・発展課題
11	ゼミ形式討論(5)	2		受講生がテーマを選択して話題提供し、参加者全員で討論を行う。	
12	ゼミ形式討論(6)	2			
13	ゼミ形式討論(7)	2			
14	ゼミ形式討論(8)	2			
15	総括	2	授業全体のまとめを行う。		
学習時間合計		30	実時間	22.5	
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間(試行)	
①	授業で学んだことを復習するとともに、自分の考えをまとめて、レポートを提出する。			60分×9回	
②	企画・発表準備			360分×2回	
備考欄					
<p>(共通記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> この科目はJABEE対応科目である。その他必要事項は各コースで決める。 <p>(各科目個別記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> この科目の主たる関連科目はメディアコンテンツ応用(5年) <p>(学位審査基準の要件による分類・適用)</p> <p>科目区分 関連科目 工学及び周辺技術等に関する科目</p>					

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分=1、90分=2)